



西洋雜記

壹

リ伊
3815
1



3815  
1-4

嘉永戊申新鐫

夢遊道人著 全四冊

# 西洋雜記

江戸書林 文苑閣藏版



## 西洋雜記序

歐陽子曰。至哉天下樂。終日在几案。嗚呼。公之在官也。切陳時事。深憂朝政之不平。邊境之不安。而其言之如此。則可知公平日能致至樂於几案。而以養其志矣。况今海內密清。則苟好書者安

西洋雜記 卷一

序一

可不盡其樂而求諸外也。西洋雜記山村才輔氏者所著。記載彼州建國風俗及物產奇談矣。聞夫才輔氏之為學。不求名聲。當時衆皆從事醫學。而獨專力於地理。嘗著增譯采覽異言。又有此著。迩來雖學地理者頗多。而未有

執事苦心如才輔氏者也矣。然則此書之可知其不苟成而已。古者大禹鑄鼎塗山。而人初辨九州神姦。周公用重譯而漸知德之感遠事矣。今也象胥之學。而有人譯書數布於世。於是目不云一丁左行字者。而得西洋萬里視諸掌上。

柳昌平之餘裕。而可不謂讀書境裏  
加一樂事。我若夫華夷之利害。則死  
此書之所敢闡也。亦非樂志於凡安。亦之所  
敢論也矣。弘化四年丁未九月望。無堂  
鈴木善教識于駿臺僑居。



西洋雜記卷一

目錄

- 世界開闢の説
- 洪水并聖人諾厄の説
- 罷鼻尔の高臺の説
- 西洋古今四大君の説
- 罷鼻落你亞并百兒西亞の二大君傳統の説
- 厄勒西亞國大君の説
- 邏馬國大君の説
- 西洋中興革命の説并諸國年號の説

ヘブレウスの少年火中に入れて焼ける説

天より瑣奪馬國を焼く説并瑣奪馬此異菓の説

并西洋諸國男色を禁むる説

茅索祿斯王の瑩陵の説

アレキサンデル大王諸將に寶物を賜ふ説

并乞兒に千金を施す説

君を弑する逆賊雷霆を撃つ説

カールゴロト帝邪魔の祠を毀つ説

邏馬國銅甲の説

西洋雜記卷一



大正四年六月九日寄  
内田銀藏氏贈

予近年志を西洋の學に興し。磐水先生に従事して其讀書譯文の法を習ふ。既して先生に侍するの間。或其語路文義を問ひ。或彼邦俗事情を問ひ。彼書を閲するに。間ニ奇説を得るとある。則是を懐中の小紙に録せしむ。尔後歲月を経るに。隨て筐笥中に充溢し。あまたありて。頃日是を淨寫し。其讀書文義語路に係る者ハ一編となし。以て彼邦書を讀む時の考證に備へ此

其紀事奇談雜技物産等を記し名けて西洋  
雜記といふ實學の用の中らんとしども或以  
て聞見を資くするに足らん然るに予が短  
才淺學するに記をとりて深く誤謬あること  
を怕れあへて君子の覽は呈せんとははらふべ  
しとて筐藏してしつゝ予が遺志は供するもの  
享和改元秋八月朔旦山村昌永識

世界開闢の説

太古の世は造物主すて天地を造成してのち人の始祖  
男女二人を造りてその地を「パラデ井ス」の地と置く其所  
居を號して「エデン」といふ

按「パラデ井ス」ハ樂界といへる義なり奇器圖  
説ハ地常良和之處といふ是なり昔々西書を按  
じ「パラデ井ス」の地ハ今の「アルメニア」國「帝曷爾  
伯祈國」歐法臘得河「チギリ」ス河「ダウロス」山等  
の間なりと「ヘブレウス」の語太古一種の方言にて「ハルテ  
ス」といふ「キリーキス」國の語にて「パラデ井ス」と

いふとあり。

其男を亞當アダムといひ女を厄穢エヒといふ。

一はいさく造物主天地を造成しつものち二塊タケの

土を搏成ツクしつ此二人の形を造り萬民の始祖とな

す。あまき人死すまば元の土に復カるの義を明くよ

せることなるなりと。是ハ今の神道者と稱するものれども附

會するもの同くして此説最怪誕なるべし。

其地すべし氣候融和なり人疾病なく又憂苦

あり。天すくちまがくめよ水流の派ハを分ちく四の

大河となりし。美魚多く。

あまき今の安日河カンゲスチギリス河インド印度河チウフラ一は

得河の四なりと。あまき其ハラテイスの地今の東

印度の地及ぶるや。すく地理の書に印度北南海

則意イラン蘭島の中アダムスバンクと云地あり相傳ふ

是古亞當居りし所の地ありと皆詳あらば

すく清蔭イシ美景ありて人をく憩息ケイシツクせしむるは宜し

其他五穀百菓美味の物。また天地自然は生成し

絶て人力を勞せず。鳥獸と群を同くすといふは

鳥獸みな人の命メイを聽く敢て人よ害をなすことなし

然るに年を歴く邪魔虚以ウカ伺りて慢心マンシン漸生マシユクす。

一はいそく。其は神の憩息する所の一箇の大樹の上よりつて一蛇の廻繞を俗を見るあへて意となさざり。此蛇ハ乃スルヲ邪魔の變化せるものなり。其虚を伺カケひて、驕慢の心を生ぜしむといふ。

厄ユ穢ガ言ハ因テ。亞當アダムもすく天の教戒をばむさうて、其小罪を造物主より得たり。さきよりつて地氣カハ更變して、五穀生じざり。鳥獸害をちり。生老病死飢寒此患を免じば男子ハ其耕田の勞苦を罰し、女子ハ其の生育の艱辛を罰し、是よわいしく亞當アダム自耕田の器を造りて、其の衣食をいとあみ。始めて火食を知り。

すく木を伐りて屋を造り、以て寒暑を避く。厄穢生む所より子多き中、其第一子をカインといひ、第二子をアベルといふ。此二人の世よりつて、始めて城邑を建てる居りて、カインハ國王の始とありて、政化を施し、人類次第に蕃息し、此時人壽は長し、數百歳を保つ者少かりし。

一はいそく。亞當ハその壽九百三拾歳たりと。さきより以後乃事體を四に分く。ゴウト銅、シル銀、コ銅、ベル鐵、エ鐵、ゼ鐵、ル鐵乃四「テイド」と號し、又時候の義、さき金銀銅鍍乃四を配して、時代を分ちある者なり。人間日



用の諸器財乃至樂器の類までも多くハ此時代の  
内ニ造成せりとす。

洪水并聖人諾厄の説

洪水ハ今称して「ソンドフルウド」といふ。上は「ソフ」エイベルテ  
イ「ド」の世の末に「ソフ」て。即西洋開基第一千六百  
五拾七年あり。此時聖人諾厄なる者あり。ラメキス  
といふ人の子あり。あきより前ニ天の告よりて預  
此事を知りて。一の極めて大なる匣を造る。其制恰船の  
如くして衆の人を容る。上下四面ニ堅固  
密よあれと塞ぐ。名けて「アルク」といふ。是は今の  
舟の

類る。六の歳の第二月十七日今の西洋の四月と記せり。按は  
あき太古「フレウス」の曆法なり

ハ洪水出づ。此時密雲遍く布た。猛雨やまざらば。凡  
四十晝夜地面全く没して。水諸山の頂を覆ふ。城邑  
人民すべて存する者あり。あきよおいて。諾厄の  
其妻及び三人の子三人の女并其家人等と共に。  
器財食物書冊等を持ちて。悉其大匣に入り。波を  
こがして飄流り。第七月の二十七日を以て。亞爾墨泥亞  
國の「タウロス」山に至りて止る。此時天晴て。始めて虹霓を  
見る。するもち相共匣をりて。山頂に登り。葉を採り  
あきを食して。皆命を全うり。彼洪水ハ凡一百五十餘日

よして收カまる是より以後の事を「テウエーテ。ウエエレド」  
 第二の世界新世界とす。テウエーテ。ウエーレルドリへる義と稱ヒひ。あま  
 彼匣中の衆人のこ存活して子孫を生ト。人類再生育ス  
 して。新ノ一世界をなす。故カなり。諾ノ厄クまで。存活シ  
 て。天の恩を謝シて。始めて「アルタール」神前ニ備を作ス。  
 美香タイを焚キて拜イ祀ヒ。是レに於テ百菓草木禽獸蕃息  
 す。便スナチ葡萄ブドウを釀カモして。始めて酒を造ル。諾厄の三人ノ  
 子。其小子を「シヤム」といふ。最聖徳あり。シヤムの諸子の  
 中ニ。カナアンといへる人ノ。聖人ナりて。始めて如徳ジエテ  
 亞國アを開ク。故コト如徳亞國の古ノ名ヲカナアンといふ。シヤムの二兄長をヤヘット

といひ。次をセムといふ。此三子ハ即彼國萬姓の祖なり。入ベル馬マニ泥  
 亞國アを開キ基キ。アスケナスといふ人ハ即ヤヘットの孫ナリなり。  
 按キヤヘットの子をゴメルといふ。其子ハ即アスケナスなり。其  
 他ムスコボヤテエ。弟ニ那カ瑪カ爾カ。拂フ郎ラ察シ。是レ的シ亞シ等チ。西北諸國ハハな  
 ヤヘットの子孫是を開き。亞細亞西南諸國ハ皆セムの子  
 孫是を開けり。如徳亞國の大聖人亞把刺アバ刺ラ枕ムハセムの子孫ナリ  
 ム。その子ヲアールアルルツツ。ハアードドルルと稱ス。  
 再按キアルアルアルルハ火を燎シて天を祭スるの基なり。  
 按キ魯ロ西シ亞ア本本紀ニ云フヤヘットの第八子ヲルルツツシシユユススと云フ。  
 その治むる國を魯西亞ロシヤといふ。又ヤヘットの子ヲメメセセココといふ

ソノ者ありて其治むる國をモスクワと云。魯西亞後世其地  
は都に故に總國の號を莫斯科未亞と云。記せり。

其匣中所藏の書ハ皆ヘブレウスヘブライの文字を以て記せり。その後世  
傳へ大聖人美瑟モゼスと云者今を去るは三千  
三百年前の事なり是を脩書して今世傳ふ。

按よヒブ子ルス名ガ萬國傳信紀事ハ曰アル墨尼亞國ハ  
高山ありアララトといふ百兒西亞國のエリハニ城を去る  
と遠うらび是上古聖人諾尼ノアのアルク上は舟洪水の時  
是より止まりて居りて今に至りて當時の

遺跡尚存ハたゞよりてアル墨尼亞等諸國の人  
是と稱し聖蹟といはれ此山は登りてその遺蹟を拜

禮すと云ふ又按よ上よりダウロスハ極て大山  
ふりてアララトハその山の内にて一処の名あり  
又按よ洪水の事ハ物理小識に載せて曰天地開  
時初有水荒云々太西言洪水時アル墨尼亞為  
甚猛雨四旬地面全没止遺諾尼等數人考其時  
當帝嚳之八年壬辰云中國洪水在堯時是一徵  
也云々

罷鼻尔の高臺の説

太古の世ハ人類聚居して言語をヘブレウスヘブライの一種  
の洪水の後よりして機智漸く生る人心奇異を好

むすむすち「シ子アル」アツシユル等。諸部の酋長等相  
 議して「シ子アル」の平地において、大に土木の工を興して、  
 極めて高大なる樓臺を建て、天際を窮めんとし、諸酋  
 會聚して、工を監して、漸く數十層を成り、此時は天の  
 傲慢の志を憎みて、忽ち諸人の語音を種々異にして、是  
 は於て諸人言語相通どぐぐく、彼此紛雜して、工を成ら  
 ざるを得ば、皆各退散して、臺遂に成らば、あき諸邦語  
 音を異にするの始あり、其臺を建つる地を「ヘブレウス」  
 の語より罷鼻尔と云ふ、是を和蘭語に翻譯すれば「バツル  
 ウルリニギ」と云ふ事とて、即ち是と云ふ義あり、此臺

の遺址ハ、今の百兒西亞國の「オウト・ハックタツト」と云ふ  
 城の傍にありて、歐法臘得河を去る處に一里四分の一  
 日本の半里のちりといふ。

按、以上の諸説ハ、蓋彼邦の古書に載する所、  
 して、其説或巫祝に近しく、厭ふべきものあり、西  
 洋の俗臆説をなすナリとある風あるより、  
 て、姑傳記よりして是を記すの、  
 唐土朝鮮琉球天竺諸國すべて怪談あらぬハ、  
 西洋にても、此外地中海の「セイチラ」と云ふ島ハ、太白  
 星の神、海泡を化して地と云ふ事、又「シリヤ」國ハ、其  
 初ハ、形貌きとめて長たる、一種の異人、其を開、群  
 とを、他邦の人を取食ひ、を、歳星の神、其を平け  
 て、あつては、人民を造る、あつて、類多きあり。

西洋古今四大君の説

西洋上古より今よりするまでの帝王を稱してロイ  
 ル。モナルクと云ふ。あはれ四の大君と云ふ事あり。第一  
 ハ罷鼻落你亞西洋開基千七百十七年より。第二ハ百  
 兒西亞西洋開基三千四百一十年より。第三ハ厄勒奈亞  
 西洋開基三千六百二十年より。第四ハ邏馬西洋開基  
 零二年より。今に至りて。尙相繼ぐ。此四代の世系沿革治  
 礼興廢の事ハ西洋史書に載すと云ふ。頗詳悉あり。今其の大要を採て左に記し。以て考證の一  
 助と備ふ。

罷鼻落你亞并百兒西亞の二大君歴代

傳統の説

西洋開基後最初の帝王ハ罷鼻落你亞國あり。此國一  
 名ハ「バヒロニヤ」又名「アツセ井リア」又名「カルデア」と云  
 今の百兒西亞亞爾墨泥亞帝曷爾伯祈「エイラクスラ  
 じイ」等の地は其屬國たるゆえに。地方極めて大なるを  
 初め聖人諾厄の第三子シヤム洪水の年を以てその子  
 キニスと生む。一は曰キニスハシヤムの孫に是すまをち歐羅  
 巴中興革命の年を去ると云ふ。凡二千三百二十七年前に  
 り。あはれ「バヒロニア」あはれ黒人諸國の祖なり。キニス

西洋開基第一千六百八十二年を以て鎮星の神の保ホウ護ゴよりて「アツシリア」の地を開拓セキす。其子ニムロドの世に至りて始めて諸部を臣服して「バビロニア」國の大業を開けり。あき即西洋開基第一千七百一十七年あり。或曰。洪水後二百七十六年。二國を開くと。或いそくニムロド一名ベリユスと号れと。或曰。ニムロドとベリユスも別人なりと。いふ詳あるを。ニムロト才徳ありて國人歸服し。在位六十年よりして。位を其太子ニニユスよりつゝふ。ニニユス死して。其弟瑟弥辣末斯位を嗣ぐ。のち印度およびモ一レン黒人のの諸國と戦ひて。皆是は勝ち。西洋全史は「すゝは是を國土を開拓セキし。威徳日は盛なり。まなまち始めとす。」

昔時天よりして人の言語を礼レする。罷バ鼻ビ尔ルの地は於て。大なる土石の工を興して。大都城を築く。名けて巴必バビ魯ロンとす。漢譯漢譯は把把其其調調廻廻および三百六十八「スタヂイ」ハ里ハの西洋の四十四十精石を以て墙カキとなす。其厚さ三丈二尺餘。高さ十餘丈。まゝ其間は二百五十餘処の高臺あり。皆高さ二十餘丈。欧法臘得河と「チギリス」河の流を引て大湟ホリとなす。その湟甚廣くして。あまゝの大船を浮ぶべく。まゝ城樓の上。苑囿山水諸景ありて。其廣大美麗なる。世界七奇の第一といふ。瑟弥辣末斯セミラミス殂して其太子ニ子イアス位を嗣ぐ。是より子孫相嗣で

西方の大君より。その後統を傳ふるに三十四世あり。其  
 一千三百零五年よりして。一、五十五年は作。按、此世數  
と年數は比すべきを世數や、さくま  
 まは似たり。あそり、ハ上古の事蹟。今遺漏ある。まうとどむ  
 バビロニアの史書ありて。西洋全史ありとよりて記するもの  
 まどが世數の事。其諸王の内は於て數はサルダナパリウス  
 入ると入らざるとある。尚進て考ふべし。サルダナパリウス  
 王はトリスコンの代よりして。昏愚にして。淫荒を  
 恣に。徳衰へ政礼を。國人怨み叛き干戈邦内に起り  
 て。戦争やまひ國王の別郡「ニマ」城ハ昔その第一世  
 のまニニエスの建つる所の美麗ある大城あり。一、  
ニマハ城ハチギリ。あまの兵火は焼失。邦内分裂志  
 ス河の邊はあり。ニマハ城ハ昔その第一世  
 て。遂に罷鼻落你亜と默丁との二國となりて。王業

衰微せし。是則西洋開基第三千零七十七年の事あり。  
ス井ビ  
唐土周の厲王のハ 其後此國王再祖業を恢復して。土宇  
年庚寅はあつる。を開んとを欲し。大に兵を興して。如徳亞國を攻入  
 りて。其國都「エリユサレム」城に至りて。陳營を設け。日  
 を期して城を攻めんと。夜に至りて。忽一乃「エシケ  
天人身は羽翼 劍を以て天より舞下り。其諸營を  
此あるものなり 撃つ。罷鼻落你亜の軍士大に驚れ。甲を捨て。十  
 八萬六千餘人一時は山谷に星散して。死する者甚多し。  
 是に因て國勢すすく衰へ。後三百餘年よりして。遂に百  
 兒西亞國王セイリュスに滅する。是即西洋開基第三

千四百一十二年なり。本朝安寧天皇十三年。周の百兒西亞  
 ハンと默丁は屬する小國あり。レイチア國王レイチアハ小亞細亞  
 の中よりあり。一名「レイシア」漢譯利細亞と作る。其女マンタナを  
 あき昔時始て錢を造るの地なりとす。以て百兒西亞國王カムベイセスは妻以て太子を生  
 む。名けてセイリュスとす。あき則百兒西亞國興業の  
 始祖あり。セイリュス天資英俊よりて能兵を用ゆ。レ  
 イチア國の内礼を靖め小亞細亞の諸國を降し。默  
 丁の王業を篡奪して國勢日は盛なり。罷鼻落你亞  
 と相争ふと數年より。あばくあきは勝ち地を  
 畧して「ゲインテス」河に至り。是を渡らんとする。水

濶くして其淺深を知らば。且舟棹あり。セイリュス則  
 一疋の白馬を追放ちて水中に入ら志めて。是を試む  
 る。白馬水を游ぐと甚速よりて直は渡りて向の岸  
 に登る。是は因て其水の淺きことを知りて。諸軍悉渡  
 り。遂は進で罷鼻落你亞の國都罷鼻尔城を攻めて。  
 相戦ふて日を経り。此時城中の一臣百兒西亞は内  
 應する者あり。門を開きて兵を迎ふ。是よりして百兒  
 西亞の兵は城中に入して。遂は罷鼻落你亞國主  
 ナホン子チを擒りて是を殺し。其王業は代りて西  
 洋乃大君より。罷鼻落你亞國開基より。以来九一千六



百九十餘年よりして國祚絶滅し此セイリウスハ尚諸國  
 を併せんことを欲して兵を興して「メツパタミア」今の  
 帝曷ル伯祈「セイリア」如德亞等諸國と戦争すべしそ乃  
 軍中より殂し在位九十八年なり。一ヨリハセイリウス王  
 破滅し「セイリア」國の舊臣是を怨む者ありて密に兵を聚めて  
 セイリウスを奪つ所の營を襲ひ撃つ百見西亞の兵破きてセイ  
 リウス殂し百見西亞の人セイリウスの尸を將以て國に歸らんと  
 するに路遠くして不可なり則其頭を斷て桶に入し人血を以  
 て是を浸して國に持ち歸るといふ其太子カムベイセス  
 人血を浸すの理甚詳なりと云ふ其太子カムベイセス  
 ありその祖父の名を以て名くる者位を嗣ぐ無道なり「厄入  
 多」國王アマシスと仇を結び大に兵を起して是を伐ち  
 連城を勝て「厄入多」の國都孟斐斯城を陥し大に殺

掠を恣る此時アマシスをぞ死し則其瑩陵を発掘  
 してアマシスの「ゲバルセムテ」の屍を上古厄入多國の典  
 尊貴の人死すれば葬  
 屍と臍腑を抜き去り種々の貴藥を以て是を厚く葬す  
 是を稱して「ゲバルセムテ」の尸といふ是千年を経ても朽損せず  
 らしめんが為なり詳曳を出して是を鞭ち是を寸  
 二は切りきざしてのち是を焚て灰となる厄入多國の典  
 子ハいま位を嗣ぐの礼を行はず逃して他國へ行ん  
 とせしを百見西亞の兵追ふて擒して是を殺し遂に  
 「厄入多」國を滅せり初め「厄入多」國ハ罷鼻落你亞國乃  
 始祖ベリユスの次子アエゲイブトスなるもの亞刺比亞  
 國に於て「メラノホデン」國の人と戦ひ勝て西南の地を

開拓して大業を成り五十餘人の王子ありて政を輔け  
 國を治め子孫相續きて法制礼樂文學等皆全備し  
 て國勢甚隆盛なりしが是に至て悉絶滅して遺るは  
 少く是よりカムベイセス兵を進めて利未亞  
 國の荒沙按は法の荒沙の地ハ今のチアラ國の沙海の地よりして大風沙を  
 揚げて行く處に兵士水は渴して死するもの甚多  
 し是は因りて兵を收めて本國に還る者少く其の  
 ち驕慢無道殊に甚し百兒西亞國中に於て土地を有  
 つ大商十四人を欺て捕へて生きたるを倒し土中に埋  
 殺し或ハ猛獸を縱て人を食せしめ或ハ人を樹に縛り

自是を射殺して以て樂とするは其他暴虐の刑甚多く罪  
 なる者を殺すこと計りて勝る處に後「セイリア」  
 國はありて殺さる誰人の所為なることを知らず其死  
 せる形状甚奇異なり蓋天報なるものなり在位凡  
 七年ありカムベイセス在位の間子あり猜忌殘虐し  
 て勲舊近戚大抵殺し盡して嗣とすべき者あり曾そ  
 の弟スメルテスを殺さんとすスメルテス逃る其行く  
 ところを知らずカムベイセス死して後忽スメルテスと  
 稱する者ありて出づ衆是を見るは其形貌少くも  
 異なる所ありし按は此事宋の柔福公主の度と相似するといふするを

立て主と成り此人淫暴よりして位は即て後より先の二王の  
 妃妾を以てさな己の妃妾とする其の後セイリュスの一  
 妾志づるよしあきを見るよし決してスメルテスにあらざ  
 るを知り因て其来由を試み問ふ果して一の妾男子  
 りしてスメルテスにあらざれば則ち志を密に國臣に告げ  
 よつて兵を以て襲て是を殺し然しして真のスメルテ  
 スに終に其行く処を知らず國人喜び服して威徳最盛なり  
 を立て王とすダリウスをセイリュスの女婿たり是を  
 稱して百見西亞國第三世の大君としふダリウス賢  
 才ありてよく仁を施す國人悦び服して威徳最盛なり

遠近諸國皆あきと畏る曾兵八十餘萬を興して歐羅  
 巴洲の東に至りダリウス老て其太子セルセス位  
 を嗣ぐセルセスもダリウスの次子ありとしふ其  
 母ハセイリュスの女よりしてダリウスの元妃なるがゆゑ  
 立としふ是より子孫相継ぎて西洋の大君なり國富  
 り兵強くして世に威を諸國に振へり允統を傳ふること  
 十世二百十餘年よりして厄勒察亞國の帝王アレキサン  
 テルに破らる國亡びぬ是則西洋開基第三千六百一  
 十年の事よりして日本孝安天皇の六十五年唐土周  
 の烈王の四十一年癸巳に當るとしふ

按ベルシニア百見西亞國ホルラント和蘭の人ハ呼ヨシて「ベルシイン」  
「ベルセント」云々今アジヤ亞細亞洲中ニ於テ最有名の  
大國ナリ。志シトシトモ。今の百見西亞ハその後  
別ニ中興キリキスキリキスノ有リ。

厄勒察亞國大君の說

馬マセドニア則多泥亞國ハ其地「ギリキス」國の内東北ニ有  
地アルシトシテ其東ハ多嶋海ニ臨カミ。ソノヨリキウ有  
富饒の國ナリ。其始祖をカラニユスバビトシテ罷鼻落ロ休  
亞國アの尚盛アナリ。時アトシトシテ其地土を開キテ是  
王アトシテ位を其子タウニユスアニ傳フタウニユス在位

十二年アヨリ卒シテ其子テユリマスア立つ。テユリマス  
在位三十八年アヨリ卒シテ其子ベルヂキユスア立つ。  
在位五十一年アヨリ卒シテ位を其子アルセラウスアニ傳フ。  
是アヨリ子孫相續シテ此國ニ王トトシ。其後西洋開基第  
三千五百九十四年ア。日本孝安天皇三十九年ア。周アの  
アレキサンデル大王其父をヒリピユスアトシテ祖をアメ井ン  
タスアトシテ並ニビ馬マセドニア則多泥亞國の王ナリ母をオレ  
イムビアスアトシテエビロスア。其地「マセドニア」の西ニ有リ。  
の内「モロツセルス」國王子オフトシミイアの女ナリ。是  
歲八月第六日「チンクスダック」ア。火曜日アを以テ馬マセド則多

泥<sup>ニ</sup>亞<sup>ア</sup>の王京「ベルラ」の地。此地今名「ジュキリア」といふ。リロニツキとリへる海湾に近き城あり。

おひて生る。たゞ即ヒリピウス王即位の第五年より

て西洋中興革命其事下の時を去ること三百五十四年

前選馬國開基後第三百九十七年百見西亞國王才

キユスの世よりつゞき。此時厄弗俗國エヘスは在る所のチ

アナとソへる神女廟。厄弗俗國ハ小亞細亞の内ニ属ル。其の祠廟ハ天下セ奇のきの一なり。掃

郎察國のミツリンと云へる人著す。その意太里亞紀行の中。厄弗俗國を著して。チアナの像あり。其像女身にして。甲冑の如き。その著る上は種々の圖畫あり。西手は日月を握る。自火を出して炎上り是より

先は神女其祠師を告ていそく。我祠自焚くるの日よ

りつて一の英傑の主世は降誕して東方諸國を破

滅すべしと果してそれ言ふとつらうの如し。アレキサン

テル生きて神靈として大徳あり。後の史書は是を

尊んて「マグニユム」云々「ゴロート」といふ。「マグニユム」ゴロー

へる義あり。今よりつゞいて西洋より英賢の王へハうをあらはし。此号を加へて是を尊むと云ふアレキサンテルは始るといふ。又梅は

アレキサンテルも。もと其母舅「エピロス」國王の名にして。その以て。是は名く。是は彼邦より。その習俗より。采覧異言和蘭

國の條は。生子。則以前世大人偉者。名字命之。あるまじく。是類なり。年十八より父の王よ

志して。アテエ子アテエ子國を征伐を。ドニア國ドニア國の南は有り。

アレキサンテル自一陳は進んで相戦ふ。敵軍披ヒラけ靡

きて。敢あきよ敵する者あり。マゼトニアの兵あきよ

乗して争ひさくみ。遂は大はアテエ子アテエ子の兵を破

りて斬獲六千餘級。アテエ子<sup>シ</sup>ン國遂に降服す。アレキ  
 サンテル性潤達<sup>ク</sup>として、將士を愛し施<sup>ホトコシ</sup>を好む。凡物を  
 得るおとよ。皆おとよを衆に厚く賜<sup>タマフ</sup>して、敢身<sup>アヘテ</sup>よ止めを  
 これ時百兒西亞國ハ世ニ西洋諸國の大君として、地  
 廣く兵盛<sup>シ</sup>として、府庫の富<sup>トク</sup>いよふるをいふ。百兒  
 西亞の人曾馬<sup>ウマ</sup>則多你<sup>ニ</sup>亞<sup>ア</sup>よ来る者あり。アレキサンテ  
 ルが厚く施<sup>ホトコシ</sup>して、身よ富<sup>トク</sup>まするを見て、是を譏<sup>ツツ</sup>りて  
 いそくおよそ國ハ府庫富むよあらざるハ國用足<sup>タ</sup>  
 べうらび君の府庫は<sup>トク</sup>として何<sup>ナニ</sup>の所よあるや。アレ  
 キサンテル答<sup>コタヘ</sup>ていそく。我府庫ハ親友將士の心よい

り。百兒西亞國の人その答を異なりと。次年二十<sup>ニ</sup>  
 てヒリ。ヒユス王病<sup>シ</sup>く殂<sup>シ</sup>。すなをもち位<sup>イ</sup>を嗣<sup>ツグ</sup>ぐ。いづ  
 ち<sup>シ</sup>。タラシア<sup>ア</sup>「アウニオン」ハ<sup>ニ</sup>アル馬泥亞<sup>ア</sup>等の諸  
 國と戦<sup>タケ</sup>して、皆おとよ。勝ち。タラシア<sup>ア</sup>國王<sup>クニミ</sup>レイスマニ  
 スを斬<sup>キ</sup>り。タラシア<sup>ア</sup>ハ今のギリイキス<sup>ス</sup>。テベン國<sup>クニ</sup>を併<sup>ア</sup>せ。欧  
 羅巴洲東南諸國皆降<sup>シ</sup>る。おとよ。兵威日<sup>ヒ</sup>盛  
 として、漸<sup>シ</sup>く亞細亞洲<sup>ア</sup>の地を蠶食<sup>サニシヨウ</sup>す。百兒西亞國  
 王タリウス。コトマンニス<sup>ス</sup>是<sup>ニ</sup>を惡<sup>ニム</sup>む。則<sup>シテ</sup>百兒西亞國中  
 「マンノン」ロ<sup>ロ</sup>デイセル<sup>ル</sup>等の地兵步卒十餘萬。騎士一萬  
 餘人を發<sup>ツク</sup>して、おとよを擊<sup>ツク</sup>つむ。アレキサンテル兵を

以て是を迎へ戦ふ百見西亞の兵多きと數倍よりて  
 馬則多泥亜の兵中、怖る色あり、まては圍を受んと  
 次アレキサンテルはなもち自兵器を執り、矢石を  
 冒して敵陣に入る。左右是を諫めていそく事すべし  
 危し。君もやかく退きて身を免るべし。アレキサンテル  
 いそく汝等ハハハ我親友なり。すては事すべし。至る  
 生死を同すべし。我何を親友を捨てる。いそく身を  
 全うせんや。是は於て士卒皆奮激して百見西亞乃  
 堅陣を衝く。遂は是を破る。首を斬ると一萬餘  
 級俘虜の數もはつとあき。稱ふ此時馬則多泥亜乃

大将九人士卒二十餘人戦死しアレキサンテルはつとく  
 其屍を求めて是を葬り、碑を建てる。其功を録し、其  
 遺す所の老幼を撫育し、是よりして衆心感激して  
 為は死力を盡し、「レイシーン」「ハムベイリア」の二侯  
 國および「フレ井チア」國も降る。此時西方羅馬ラ  
 テン等諸國、仇を結び兵連あると數年たち、アレキ  
 サンテルの事を和諭し、諸國みよ是よりあつとく。西洋  
 開基第三千六百一十七年。日本孝安天皇六十二年、周百見  
 烈王三十八年、庚寅、常。百見  
 西亞國王タリウス。コトマンニス大は兵を起し、歩卒  
 四十餘萬、騎士十餘萬人を以て、自將として、まじり

「キス」を撃つ。此時アレキサンテルすゞで「シリシオン國」を地志を梅、シリシオン國の攻め平げて境内の衆をつゞて「セリ」國の「ダウロス」山に於て是を拒ぐ。百見西亞國王衆を待て備を設け、平原に屯して士卒みな急慢せり。アレキサンテルすゞもち兵を以て其不意に出で掩襲し、大はあを破る。百見西亞の兵皆潰散し、死する者十二萬人、百見西亞國王僅に單騎より走り去る。あまよりて百見西亞國王恒に駕するを其の寶車および佩ぶる所の寶弓を得、其王の母と愛妃子女を得たり。アレキサンテルあへてあを輕慢

せむ礼を以て厚く是を養ふ。遂に勝に乗じて、それ別都を攻取て得る所の儲蓄珍寶をめぐり夥く、是よりして小亞細亞の嘉累亞葛八多西亞那多里亞馬西亞厄弗俗等の諸國を攻併せ、地中海の諸島を降し、西リ牙の諸國を破り、テイルユス國を滅し、弗尼奈亞國を降し、如德亞國主あま其國都「エリユサレム」城の僧官の主等皆歸服朝謁して寶を獻げ、あを以て地方廣大よりて、欧法臘得河を以て百見西亞國と界を分ち、其近傍「バヒロン」等の諸州皆降る。百見西亞國王あま敗き、封疆日ニは覺るを見て、其急よへ



ハ國中レ令レて大小軍器を造り諸將と議レて大兵を興レまレく韃靼シケイチヤ是レ的ニ亞等諸國の兵を招マき集アツめ歩卒八十餘萬騎士三十餘萬戈甲備足レて軍容ヨウきとめて盛チありアレキサンテルも亦諸國の大軍を帥ヒキして欧法臘得河エウフフラトに至ル戰を交マシ申ル百見西亞ペルシアの人前度の屢敗シき辱ハチを取ルを憤イキり誓ヒてギリキスイキトナを殲滅センせんトて其鋒甚銳ホサキアレキサンテル則奇計を廻マシて精兵を合ツキく其後コト廻マシり出タる前後相應ツキて其中軍を衝ツキく悉是を破コトり首を斬キる事九萬餘級其他死する者計カふるコトはシ甲ホロを捨スて兵を解

く四方小潰クイれす馬則多泥亞マゼトニアの騎將ケウハルメニオハルメニオ者ケウ驍勇絶倫ケウあり北ニガを追ツて百見西亞ペルシア國王ケウダリウスダリウスコドマンニウスコドマンニウスを鎗を以ツて刺殺サシしあコトらシてアレキサンテル大キ勝利を得テダリウスコドマンニウスの屍をハ王者の礼を以ツて厚く是を葬ナり其騎將を重く賞メしコトをシ兵を進めて東方諸州を攻破シりてその明年ペル百見西亞ペルシアの國都ペルセポリス城を拔メて持テ此國を滅スて西洋大君の業ノ代りついで東方バサリアバ國を滅ス其地ノを以テて大キ射獵シヤクをナり獅子虎豹諸獸を獲ツるコト其數ノはシ萬ヲもツかシるコト

南の方亞非利加<sup>アフリカ</sup>にむろい。既入多國を平げ。其地  
 は大城を築く。あま今の「アレキサンデリア」城<sup>アレキサンデリア</sup>なり  
 あり。次で利未亞國<sup>リミア</sup>を降して。黒人國の界<sup>イリ</sup>を  
 の地を開く。後すく大軍を以て。天竺印度國<sup>インド</sup>を攻敗  
 りて。印度の總王を擒<sup>トコ</sup>す。その他の印度諸國を破  
 滅し。東の方安日河<sup>カンゲス</sup>に至り。兵を收めて本國に還す。  
 威徳四海に及びて。西ハ歐羅巴<sup>ヨーロッパ</sup>の諸王國。南ハ亞非利加<sup>アフリカ</sup>  
 洲の黒人諸國。北ハ韃靼<sup>シベリア</sup>的亞諸國に至るまで。みな  
 朝貢して。方物を献<sup>テ</sup>げ。則帝都を「ギリキス」國に建  
 ち。其子弟功臣を諸國に分ち封じて。王とする。あま西

洋開基以来前後無雙の英雄の帝にして。地の廣きを  
 まく古今比をいふ。是より統を傳ふると。あま二  
 百八十餘年にして。羅馬の國威徳隆盛<sup>ウラ</sup>にして。ギリ  
 キスに代りて。雄を西洋に稱<sup>ウラ</sup>はす。

羅馬國大君の説

羅馬國拂郎察<sup>フランス</sup>の人ハ「ロム」<sup>ホランド</sup>と云ふ。和蘭の人ハ「ローメ  
 ン」と云ふ。其地意太里亞國<sup>イタリア</sup>の中央にありて。地白里<sup>チベリ</sup>とい  
 へる大河のなみ古よりして天下有名の上國なり。其  
 開基の始祖をロムリウスと云ふ。幼稚の時。其父母難不  
 遇<sup>ナシ</sup>し。ロムリウスと。その弟レムスとの二人を。地白里河<sup>チベリ</sup>に

すくく然きも天の加護あるも二人の小兒皆浮き流さ  
 ず敢<sup>スレバ</sup>沈まむ時一個の羊を牧ふハカスニリスといふ人  
 あり是を見て甚奇異するも其凡人はあらざることを智  
 救ひ上げて家へ歸り是を乳育ひのち成長するも及  
 んで英才人な越えし衆を懐集<sup>クダシム</sup>一遂に此國を開て  
 王となし其法令制度よく備り其ロムリユスの名よ  
 よりて國を邏馬と號ひあき「ラテン」國第十二世の王  
 の時當りて即西洋開基第三千一百九十七年あり  
 唐土周の平王の二<sup>ニ</sup>ナ<sup>ナ</sup>を邏馬國開基の元年と称ひ然  
 十<sup>十</sup>年庚寅は<sup>は</sup>十<sup>十</sup>を邏馬國開基の元年と称ひ然  
 是とも唯一方の國王なるものも其後此國王ジュリウスカ

アエサルそのあめの英武絶倫もして戦ふごとくうたよらば  
 勝ちむふとあらあへく敵する者なり「ハル馬泥亞」  
 イ「ランド」カ「リア」<sup>今の拂</sup>「ヘルヘシア」<sup>イリス</sup>把<sup>ハ</sup>你<sup>ニ</sup>亞<sup>ア</sup>諸國臣服  
 して威徳日盛其後遂に「ギリキス」を併せし「欧  
 羅巴」總洲一統の帝となり是西洋開基第三千  
 九百零二年の事なり<sup>日本崇神天皇五十二年漢の</sup>此後  
 統を傳つると三百五拾餘年よして其國大に充きて諸  
 帝争ひ立て戦争やまむ此時其帝コンスタンティム<sup>マク</sup>  
 ニムある者<sup>マクニムハ大と云ふ</sup>英雄賢才の主もして悉  
 諸僭偽の主を追討し邏馬の帝業を中興し諸州の大

礼を平定して、<sup>アジヤ・アフリカ</sup>亞細亞・亞弗利加の諸國をなす。是は臣服  
に、是はかつて新の大城と「<sup>タラシヤ</sup>タラシヤ」國を築き、<sup>タラシヤ</sup>「タラシヤ」  
を改めて「<sup>ローマニア</sup>ローマニア」又新羅馬と号す。其城を「<sup>コンス</sup>コンス  
タンチノツポール」と名く。そのを東都と号す。古の羅  
馬を西都と号す。此帝はたゞ文學を好み、東都は  
書堂を建て、書を積むと二十萬冊に及び、此帝の  
母后も甚賢徳あり、帝と共に古聖を慕ひ、賢者を敬  
ひて、賢女の名世は著る。そののち五百年ありて、<sup>カール</sup>カール  
ルゴロト帝の世に至りて、<sup>ゴロト</sup>その後上は<sup>大なり</sup>大なり。西都を<sup>ヘルマ</sup>ヘルマ  
泥亞國の「<sup>ウエ子</sup>ウエ子」の地は遠く、まゝ大都城を築き、

古の羅馬の都とバ教化王所居の都とする。帝は「<sup>ウエ子</sup>ウエ子」  
に遷りて、<sup>ナハ</sup>尚今に至る。稱す羅馬の帝といひ、<sup>セルマニア</sup>入尔馬泥亞  
國の別名を「<sup>イリケン</sup>イリケン

「<sup>レイキ</sup>レイキ」と號し、<sup>羅馬</sup>羅馬聖國といふ  
義なり。其地を分て十道となり、百官法令全備して、政化大に施  
す。歐羅巴洲は學校を建て、人士を教導するを、實は此時より  
して盛なり。又七屬國を置き、號して羅馬帝の輔政七官と  
す。其七國ハ「<sup>メルマニア</sup>メルマニア」國の庶政をまり、<sup>チリール</sup>チリール、<sup>アレ</sup>アレ  
ラト國の教をまり、<sup>ケウレン</sup>ケウレンハ意太里亞國の教をまり、<sup>ホヘメン</sup>ホヘメン  
を貢獻礼法の事をまり、<sup>ベイエレン</sup>ベイエレンハ賦税供食の事をまり、<sup>サキ</sup>サキ  
セハ征伐の事をまり、<sup>ブランデ</sup>ブランデ、<sup>ブルク</sup>ブルクハ財貨寶庫の事をまり。

近世より〜ハルツ」フランスウエイキ」の二國を加へ九官となすといふ然し今を去ると三百餘年前は東都「コンスタンチン」ポール城ハ都兒格國は奪と〜も入ル馬泥亞の帝都ハ今に至りて隆盛富饒ありて其廣大美麗なるを紙筆は竭べ〜此邏馬「ウエ子」西都の事状大畧ハ予訂正増譯采覽異言の中一記ハ故は是ハ贅せハ凡昔時ロムリス邏馬の鴻業を開き〜より今茲辛酉に至るまで合せて二千五百五十三年のち〜云  
 梅ハ「メンツ」チリール」ケウレル」の三教官の長ありて他ハ皆教官の長なり今に至り〜入ル馬泥亞國中の諸侯君長大ハ帝畿の地は會するの時あり〜此時政令を議〜

法教を布た人物を考撰〜官を授くと云ヨシニアオツテ  
 ンス所刊の萬國細分地圖の内ハ又詳ハ此事を記〜其圖  
 あり輔國九官ハ上ハ坐〜各國の諸侯ハ左ハ坐〜法教を主  
 する諸官ハ右ハ坐〜帝畿の別都を治む〜の守令ハ下ハ  
 坐す其順次悉定りあるなり

西洋中興革命の説

西洋開基より今茲辛酉の歳に至るまで凡五千七百四十八年なり然し〜開基より第三千九百四十七年ハ當りて一聖主世ハ降誕ハ此王神聖徳ありて諸國ハ教を施〜文運大ハ開け制度全ク備るを以て遂ハ其聖主誕生の次年を以て中興革命の元年

と稱す。日本垂仁天皇四十一年。唐土漢の平帝元始元年辛酉より。西洋諸國皆其正朔を奉りて。別年號を建ることなく。今茲辛酉に至り。中興革命の第一千八百零一年あり。

按。唐土近傍の唐土文字を用ゐるの國の外ハ。其已國ニの開基。或革命の年を以て元年とし。別年號を建ることハ。明史の外國傳。瓜哇國宣德七年入貢表書一千三百七十六年。蓋漢宣帝元康元年乃その建國の始たり。又池北偶談。俄羅斯國以順治十七年遣使入貢。不知正朔。自称一千一百六十六年。康熙十二年土魯蕃表文の後。一千八十三年と稱す。或記す。今考

「ブレウス」の少年火中に入て焚け

ざる説

上古の世は罷鼻落你亞國主「ナボカド子サル」ハ其父祖の業を嗣ぎ。世ニ西洋大君より。國富く地廣く。兵強く威盛り。遠近諸國は是を畏る。かくはわけて驕慢の心日増長して。天地世界の内。我はおよぶれなしと。すなをち鑄エ。命。黄金を以て己の像を造らしめ。其高さ十二丈。幅三丈餘。その國都巴必鸞城邊の「テユラ」といふ平坦の地に於て。大群臣國人を會し。天を祭る時の音楽を奏して。令を下して曰。今天地は

真主ありしす。汝等敬んが是を拜すべしと己ハ  
 金像と共に高臺の上座して其拜を受く又いらく  
 せし拜せざる者ハあま天日背くななり。ふちどあま  
 火中ニ投び置しとすたもち側ニ大坑を設けて火  
 や其中ニ熾ます。國人もな其嚴威を懼きて拜せし  
 る者たあり。惟へブレウス一名リの三人の少年アサリア一名リハ  
 アブテナアハニア一名リメサツクサアル一名リも盛徳弘茂の人  
 りて世擧て是を尊重せし者ありしがあま拜  
 礼を行たば王あまを召て其故を問ふ三人答ていらく  
 大王洪福あまて天命を受く大國を治めさすハ皆

あま天の恩徳はあらずや然るも今その恩を忘きて  
 自天地の主と称しミカラたまふまも臣等が君は叛きて自王  
 と称するも同ト是ハ王自求めて罪を天は得たまふや  
 のより。臣等實ハ大王を以て乱命なりと思へり。い  
 んぞ其乱命は後いさそつらんや。王大は怒りて曰我今  
 汝等と彼の火坑の中ニ投入まらん。誰人ハ汝を救もん  
 や。三人がしそく臣等とより人の救を望むはあられ焼  
 け死たむバ死なんの。決して王の乱命はあまごふこと何  
 せん。王いよくいうまで。左右は命じて。ふちどあま三人  
 を熾火の中ニ投入しむ。三人もな火中ニ徐歩して。衣

服身躰少一も焼け焦きず容貌自若として拾平生も  
 異らば群臣國人是を見る者驚異をざるも有り是は  
 於て王大に驚き悔て自墓を下りて三人を請ひ招き  
 て礼待して罪を懺悔しとちもちよ彼の所鑄の黄  
 金の像を毀しめ是より三人は師と事へくその  
 言を用ゐる國大は治まりとなり

天より瑣奪馬國を焼く説并瑣奪

馬の異菓の説附西洋諸國男色を

禁する説

西洋開基第一千九百四十九年唐土皇后氏アツセイ

リア國の人落徳とソへる者杵は落徳ハ如徳亞國の聖人  
 其の母および弟妻子家人と共に家を將して瑣奪馬  
 國よりソへりて居住し瑣奪馬ハ如徳亞國の一部なりて  
 土地肥饒物産蕃盛なりて居人すゞ富み榮えり西方  
 有名の都會なり然して此時瑣奪馬國風俗壞れ  
 て人倫の道を失ひ男色を恣りて其近郡アダマゴモ  
 ラアダマハ太古アダムの遺址なりゴモラハ一名アモラ又ゴノモラと  
 ラソふち如徳亞國のベシタホリス州五城の一なり其最北は  
 即西洋開基第一千八百七の西地と共に罪を天は獲りて天  
 十年の時築く所なりと云の重罰をあへんとす其國中萬民の内は唯  
 落徳一家のみ仁慈善良なりて徳義著聞するよし

西洋雜言 卷一

七十七



りて天すたるとち「エンゲル」羽翼ある天人あり一名ヘメルホツ  
 と遣ツカて落徳ロツラスを告げて他國を往ツクしむ。落徳ロツラスがいのを  
 く。その國の人罪實サシメを重オモシく。萬姓の殲滅サンメツす。すこ  
 憐アハレむべし。「エンゲル」のつとく。惡を罰せずんば何ナニをもつて  
 善を賞メシせん。汝速スベキカに去サレる。落徳ロツラスすなはち親眷家人  
 と共トモに家を收拾シウシツして他國を往ツクす。すくは瑣奪馬ソトマの界  
 を離ナレきて。ちきを回り望ノゾミめむ。熾炎シエン天を接ツキひ。ちと落徳ロツラス  
 が界を出イデるを待マツる。天より天火を降ツクし。地より硫黃焰  
 硝シウヤウを噴フた出イデして。ちと美麗なる瑣奪馬ソトマアダアゴゴモ  
 ラの城邑人物草木鳥獸悉燒滅シウメツして。曠漠の惡地とな

りて今に至りて其跡存ツキして。地の惡きを昔コトかたからんば。  
 傍ナリに大湖あり。名ナけり「ドーデゼー」ドレーデゼー。羅甸語ロヂンゴ  
 といふ。あき死海シカイといふ義イミあり。其湖中ミヅノナカに魚  
 貝等の生類ナマモノあり。故ユヘに湖中恒ツネに大脂塊オホシヤクを湧出ワケす。人  
 ちきを採ツクりて以モツて藥用ヤクヨウに供ツクひ。名ナけり「ヨーデン」。レイム  
 といふ。此湖頗廣オホシく。昔時燒ヤクきたる時トキは。その土地多  
 く燒け崩クズレして。大半ハ湖中ミヅノナカに陷没オチして。故ユヘにちと  
 ヒブ子ルスヒブコルスが所撰ショケンの萬國傳信紀事マンコクデンシンキジの下編ゲに  
 死海シカイの邊ナリに一種の木を生ナひ。其形狀シキヤウ我政羅巴洲オウシヤロバシウに在  
 るアリ。ちとろの「オキセイア」。カンタカンタ。刺棘サシトゲ多オホシき木キなり。和蘭オランダ

似たり。此木は葉を結ぶされど「ラテン」語にて「ボニ  
 ムソドミチキム」といふ。和蘭語にて「ソドムス。アッペル」  
 といふ。此葉色鮮妍愛すべく白くして圓く橘柚の小な  
 るものごとく。其肉も白き種子満ちて橘柚の類の  
 いまぐらうて熟をざるもの同どく。液汁をくくして  
 食ふるやうに。此葉日を経るやちるめて。幹の上も  
 つて乾けば色變じて黒く。是を破きて悉くな飛び散  
 りて恰灰塵の如くといふ。此葉のてハヨハニ。ヤーユツプ  
 アムマンといふ人野撰の如徳亞國の紀行書。あまじ  
 タキトスといふ人野撰の書。まじくヨオセフスと云

人あらしを治むるもの如徳亞國紀事の書等に載るとい  
 ろ皆同どく相傳ふ。瑣奪馬の地すべし荒廢は天おの  
 奇異なる葉木を生じて。其遺址を識し。以て後人を  
 誡むるものありといふ。

按。西洋諸國今に至る男色を禁むるを  
 極めて嚴密なり。是を人倫の理に背くを以  
 るの故なり。蓋女色淫礼なり。其分別たすハ  
 殆犬豕の行に似たり。男色は犬豕より敢たさる  
 るとてろりて。天理人倫をむくの最とす。故  
 には男色を称して「オン。トクケフ。テーレケニデ」。

ナテウルトトは是非法非礼ゆして人の生理を  
 そむくところを義なり。さくを以てめし、さきを  
 犯す者何れも直ス火を以て是を焼殺し、諸國  
 皆然と號して「ソドミイ」といふ。蓋瑣奪馬乃  
 迹音なり。こゝ意太里亞國イタリアはあつてハ乃猛獸  
 を以てさきを咬殺カミさしむといふ。

茅索祿斯王瑩陵の說

昔西洋開基第三千五百九十七年日本孝安天皇の四年は、  
二年唐土周の烈王の  
 十八年庚午スミアミン小亞細亞の嘉畧亞國王茅索祿斯卒、在  
 位九十四年あり。其后亞爾德弥細亞アムシヤ悲シヤといふ一

國の力を竭して茅索祿斯王の瑩陵を築くその規  
 制すべく樓臺の如く層ツウクニ上昇して極めて崇高なり。  
 内より外に至るまで悉美ある玉石を以て造建しそ  
 の制作の巧妙美麗なること紙筆ははくすべからず。是  
 まく天下七奇の其一なり。造建すぐる終らんとい  
 て、后それ夫王を憶念思慕してやらず、遂は病と成り  
 て殂。制を稱すると九二年なり。さくもあつてその  
 弟イテリキニス位を嗣ぐといふ。

アレキサンデル大王諸將に寶物を賜  
 ふ說并乞兒に金を施を說

昔アレキサンデル大王百兒西亞國を攻破りて其國都  
ヘルセポリス城に入る此所ハ昔百兒西亞國累代の都  
城ありて金銀珠玉ハリ少<sup>オホ</sup>ま<sup>カ</sup>び<sup>レ</sup>其の他奇異珍怪名  
を知らざるの寶物きをめて夥くして計うるは勝べ  
らず大王是を得て悉從ふところの諸將士小分ち賜  
ふ一臣あり奏して曰寶物真は惜むべし過て賜ふ  
と然る處うづ<sup>レ</sup>大王のソもく我ハ諸將士を以て無上  
の寶とす金銀珠玉何ぞあま<sup>ク</sup>比<sup>ス</sup>るものらんやと  
蓋古今大業を興すの英主ハその識量萬國相異らざ  
るなり

ヒイテケレルクといふ人著すとてその窮理奇觀  
の書は曰アレキサンデル大王唯武徳絶世なるもの  
も知らず文學を尚むとてその人ハ過<sup>ル</sup>なり其の  
時一大賢者ありアリストテレスといふ此人天文  
地理悉究めずといふと形<sup>ノ</sup>大王是ハ師と事  
ふ恒<sup>ニ</sup>曰我天下の主たることつぎ榮とすも足  
らず唯一人のアリストテレスを得て師とすも  
を榮とすと云ニ其賢を敬ひ士を礼すること是類  
なり是事ハ又艾儒畧ガ西學凡<sup>ソ</sup>出でたり  
すアレキサンデルすて東西諸國の大君となりて

のち、ろつて國中を巡行し、時、一人の乞食者あり、駕の前、向して數錢を乞ふ、大王左右、命じて、是、千金を賜ふ、乞者大に驚を懼りて、申し、る、ハ、某ハ乞食者なり、と、數錢を賜りて、足まり、何を此多金、よ、何、を、けんや、大王の曰、汝ハ乞丐なり、唯數錢を乞ふ、を、知の、我ハ帝王なり、千金、よ、あら、ば、施す、足ら、悉其金を彼乞者、賜りて、歸り、め、り、

君を弑するの賊雷霆は撃つるの說

昔「ギリキス」國主「セノ」在位十七年の間、驕暴不仁、殊、甚く、其后アリアト子ハ邏馬のレオタラキス帝の

女たり、其執政の臣アナスタシウスといふ者と私情を通じ

遂に相圖り、西洋中興第四百九十七年 日本仁賢天皇十年唐土南齊

の高宗建武四年丁丑、セノの醉臥を乘じて、是を匣

中、掩殺して葬る、群臣國人其威を懼れ、あへて言

を發する者、あ、爰、よ、お、り、て、アナスタシウスを立て國

王となす、然るも「ギリキス」の諸屬國馬、則多泥垂

歩而葛利亞翁加里亞等の國、皆其叛逆を惡みて、あへて

後、各兵を起して、是を撃ち、數年の間、戰爭やまら

アナスタシウス性驕傲、天地鬼神を敬ふことを知

らず、「ギリキス」の天文師「フロリキユス」といふ者、アナス

タシウスが天罰よ遇らんことを前知り果して中興第五  
 百十九年 日本継體天皇の十二年。唐土梁の武帝天監十七年戊戌の七月九日。大雷震。アナスタシウス是を恐る。正寝より他室。移り避け。雷震より震る。遂にアナスタシウスを曳た出でて地上に擊殺。アリアド子后も亦死せり。是よおひて國人先王レオの孫を迎へて位を嗣がめり。嗚呼天地の覆載するところ。日月の照臨するところ。孔臣賊子いづくんぞ其終りを令するを得んや。

カールゴロート帝邪魔の祠を毀つ説

沙瑣泥亞國昔ハ其地「ウエセル」エルベ西河の間ニ跨り。甚大國なり。土人すべて邪魔を崇信。故に其「シニテン」オスナ。ブリユク「セリング」スタット「ハルベル」スタット等の諸城皆種ニの邪魔を奉じて。奇異の形状を設け。祠窟を立つ。まゝその「ヘルツ」ヒルグの城は一種の邪神あり。あまを「コロド」まゝ「バツテ」トルラルと名く。その像身ハ人として。首ハ龜鼈なり。手ハ水桶を把て。種ニの花を盛る。土人みなまめて是を崇め信。其後此諸州すべて羅馬の帝の州郡となり。その政令を受る。よおひてカールゴロート帝。とて諸の邪神の祠

宇を破却し神像を斫り碎きて其諸地古の諸聖賢の廟を建くるその土人の汚俗を改む凡歐羅巴洲偏僻の地よりして政化の多き行をせしむる民俗すべく善は歸せしハ實は此帝の代よりなりとす

地志を按じ中興第五百年の比よりしてサキソニア勢盛りして其主ヘングストオルストと云ふ二人の兄弟ありホルステインの地より起りて今のイギリス國もあはれ七の王國を建くる又其地を開く殆入ル馬泥亞の大半は君らるる中興第六百年の比よりサルマジアといふ北方の國

よりしてソルベン一名ウエンテンといへる國起りて入ル馬泥亞の南東諸州ならびにタルマシアシレシア博厄美亞コロアチヤ波羅泥亞等の地は擧りて其中又多くの王あり共は強勇を尚び邪魔を信ず然るに中興第八百年の頃に至りてカーレルコロオト帝皆是を平げて或教を以て是を化し或是を追討破滅し又サキソニアの主ウイツテキンドスを大に破りて是を滅して諸國悉帝徳に化すとす

世紀を按じカーレルコロオト帝ハフランケンランド國

主ピピスの子よりして、子ーテル。ハルツ」の内なる  
 「インケルヘイム」城より誕生し王位を嗣ぐと三  
 十三年よりして、西洋中興第八百年より日本桓武天皇延暦  
十九年唐土唐の徳宗貞元十六年庚辰より入る皇統を嗣ぐ。在位十五年  
 壽七十二大徳の王なり。まぐカーロリユス。マグニ  
 スと号し。ゴロート」マグニユス 共々大と云ふ義あり

邏馬國銅甲の説

昔邏馬國開基第四十八年唐土周の桓王の十その國王ニ  
 ユマ。ホムピリウの世よりして、空中より大きな象御あり  
 りてその音はさうも人の呼ぶ聲に類し、や久し〜天

より〜一の銅を以て造りて鎧をその國都邏馬  
 城に落す。その音大に地を震ふ。識者ありて甲兵國を定  
 むるの兆なりといひ。おきより數年前よりして意太  
 里亞の總國大に疫疾流行し。次で兵乱大に起りて諸  
 州争戦休まず。是よりして諸敵は敗れて國中  
 まぐ平治せり。其銅甲ハソも。至りて彼國は存す。號  
 して「アンシシ」といふ。

西洋雜記卷壹終



西洋雜言卷一

西洋雜言卷一  
 一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

藏書印

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

